

平成28年度 滋賀県立高等学校入学者選抜の概要

- 平成28年度滋賀県立高等学校入学者選抜において、推薦選抜実施校は、全日制課程の32校34学科、定時制課程の1校1学科、特色選抜実施校は、全日制課程の14校17学科であった。
推薦選抜、特色選抜合わせて6,496人が出願し、3,325人が入学許可予定者となった。
- 一般選抜は、学力検査の受検倍率が1.11倍であった。また、出願変更率は6.7%であった。

※ 以下 () は前年度

<推薦選抜>

1 出願状況			
募集枠	2,283人		
出願者数	2,477人	出願倍率	1.08倍 (1.10倍)
2 受検状況および入学許可予定者			
受検者数	2,477人		
入学許可予定者数	2,113人	合格率	85.3% (85.5%)

<特色選抜>

1 出願状況			
募集枠	1,212人		
出願者数	4,019人	出願倍率	3.32倍 (3.39倍)
2 受検状況および入学許可予定者			
受検者数	4,019人		
入学許可予定者数	1,212人	合格率	30.2% (29.5%)

<一般選抜・学力検査>

1 出願状況			
出願者数	7,948人 (8,051人)		
確定出願者数	7,907人 (8,009人)		
確定出願倍率	全日制 1.12倍 (1.12倍)	定時制 0.85倍 (0.85倍)	
	全・定合わせて1.11倍 (1.11倍)		
2 出願変更状況			
出願変更者数	536人	このうち	41人は出願辞退者
出願変更率	6.7% (7.1%)		
	(1) 学科別出願変更率では農業学科が13.4%と最も高かった。(前年度は商業学科の13.4%)		
	(2) 学校出願を除く普通科の出願変更者数 300人 出願変更率 6.2% (6.4%)		
3 受検状況			
受検者数	7,879人	受検倍率	1.11倍 (1.11倍)
全日制	7,656人	1.12倍 (1.12倍)	定時制 223人 0.81倍 (0.81倍)
4 入学許可予定者			
(1) 学力検査による入学許可予定者数	6,964人	合格率	88.4% (88.2%)
(2) 入学許可予定者数が募集定員に満たなかった学校および科	15校19科		(13校14科)

<二次選抜>

1 二次選抜募集の学校・科および募集定員			
全日制	11校14科95人	定時制	4校5科56人
	全・定合わせて15校19科151人		
2 出願状況	出願者数 134人	出願倍率	0.89倍 (0.97倍)
3 受検状況	受検者数 130人	受検倍率	0.86倍 (0.95倍)
4 入学許可予定者	入学許可予定者数 113人	合格率	86.9% (71.4%)

<入学許可予定者総数および実入学者数>

1 入学許可予定者総数	10,402人
2 実入学者数	10,398人
3 定員充足率	99.6% (99.5%)

平成28年度

滋賀県立高等学校入学者選抜結果のまとめ

(全日制・定時制・通信制)

滋 賀 県 教 育 委 員 会

平成28年度 滋賀県立高等学校入学者選抜結果のまとめ

目 次

I	全日制の課程および定時制の課程	
1	募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について	1
(1)	推薦選抜、特色選抜の結果	1
(2)	一般選抜の結果	2
(3)	入学者選抜の結果	2
2	学科別の受検者数、入学許可予定者数等について	3
3	学力検査における出願変更者数について	4
4	学力検査における面接・作文・実技検査について	4
II	単位制 転・編入学、通信制の課程	5
III	一般選抜学力検査	
1	出題の方針等	6
2	配点等	6
3	検査成績	6
	【各教科の分析】	
	国 語	7
	数 学	9
	社 会	11
	理 科	13
	英 語	15

I 全日制の課程および定時制の課程

1 募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について

この冊子は、平成28年度県立高等学校入学者選抜の結果についてまとめたものである。

募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について、中高一貫教育に係る人数は除いている。

(1) 推薦選抜、特色選抜の結果

表1は推薦選抜、特色選抜の出願者数、入学許可予定者数等を示したものである。

推薦選抜実施校は、全日制課程の32校34学科（普通科16、専門学科11、総合学科7）、定時制課程の1校1学科（普通科1）であった。特色選抜実施校は、14校17学科（普通科14、専門学科3）であった。推薦選抜、特色選抜は、いずれも2月4日に実施した。

推薦選抜出願者の中学校別内訳は、県内の中学校・中等教育学校107校中97校（昨年度107校中99校）、特別支援学校中学部13校中1校（昨年度13校中1校）、県外の中学校は22校（昨年度32校）であった。全日制の出願者数は、普通科で911人（昨年度1,068人）、農業学科で228人（昨年度235人）、工業学科で347人（昨年度353人）、商業学科で329人（昨年度382人）、家庭学科で71人（昨年度106人）、体育学科で60人（昨年度58人）、美術学科で37人（昨年度43人）、総合学科で486人（昨年度443人）であった。定時制は普通科の8人（昨年度16人）となった。この結果、出願者数合計は、2,477人（昨年度2,704人）となり、出願倍率（募集枠に対する出願者の割合）は、推薦を実施した全日制の普通科では1.09倍（昨年度1.03倍）、専門学科で1.16倍（昨年度1.23倍）、総合学科では0.94倍（昨年度0.94倍）定時制の普通科は、1.33倍（昨年度2.67倍）となり、実施学科全体では1.08倍（昨年度1.10倍）であった。

この結果、2,113人が入学許可予定者となり、合格率は85.3%（昨年度85.5%）であった。

一方、特色選抜出願者の中学校別内訳は県内の中学校・中等教育学校107校中103校（昨年度107校中104校）、県外の中学校は16校（昨年度17校）であった。出願者数は、普通科で3,910人（昨年度3,568人）、理数学科で73人（昨年度107人）、音楽学科で36人（昨年度36人）であった。この結果、出願者数合計は4,019人（昨年度3,711人）となり、出願倍率は、特色選抜を実施した普通科では3.39倍（昨年度3.44倍）、専門学科では1.82倍（昨年度2.38倍）となり、実施学科全体では3.32倍（昨年度3.39倍）であった。この結果、1,212人が入学許可予定者となり、合格率は30.2%（昨年度29.5%）であった。

結果、推薦選抜、特色選抜合わせて3,325人が入学許可予定者となり、合格率は51.2%（昨年度53.1%）であった。

表1 推薦選抜、特色選抜出願者数・入学許可予定者数等

学科	項目	募集定員 A	募集枠		出願者 数 B	受検者 数 B'	出願倍 率 B/A'	入学許可 予定者数C	合格率 C/B' (%)	
			%	人数A'						
推 薦 選 抜	普通科	2,920	15~30	840	919	919	1.09	797	86.7	
	専 門 学 科	農業	400	50	200	228	228	1.14	190	83.3
		工業	760	50	380	347	347	0.91	316	91.1
		商業	520	50	260	329	329	1.27	247	75.1
		家庭	80	35	28	71	71	2.54	28	39.4
		体育	40	75	30	60	60	2.00	30	50.0
		美術	40	75	30	37	37	1.23	30	81.1
	小計	1,840		928	1,072	1,072	1.16	841	78.5	
総合学科	1,360	※30~40	515	486	486	0.94	475	97.7		
合計	6,120		2,283	2,477	2,477	1.08	2,113	85.3		
特 色 選 抜	普通科	3,960	25~30	1,152	3,910	3,910	3.39	1,152	29.5	
	専 門	理数	80	50	40	73	73	1.83	40	54.8
		音楽	40	50	20	36	36	1.80	20	55.6
	小計	120		60	109	109	1.82	60	55.0	
合計	4,080		1,212	4,019	4,019	3.32	1,212	30.2		
総 合 計	10,200		3,495	6,496	6,496	1.86	3,325	51.2		

※信楽高校総合学科の推薦選抜募集枠には、40%の他に全国募集枠を含む（上限5名）

(2) 一般選抜の結果

3月9日に実施した一般選抜は、学力検査定員7,115人に対し、確定出願者数は7,907人であり、確定出願倍率は1.11倍であった。この結果、6,964人が入学許可予定者となり、合格率は88.4%であった。

3月23日に実施した二次選抜は、二次選抜定員151人に対し、受検者数は130人であった。この結果、113人が入学許可予定者となり、合格率は86.9%であった。

表2 一般選抜出願者数・入学許可予定者数等

項目		年度	平成28年度	平成27年度
学力検査	学力検査定員 A		7,115	7,193
	出願者数		7,948	8,051
	確定出願者数 (倍率)		7,907 (1.11)	8,009 (1.11)
	受検者数 B (倍率)		7,879 (1.11)	7,988 (1.11)
	不合格者数		915	942
	入学許可予定者数 C		6,964	7,046
	合格率 C/B (%)		88.4	88.2
二次選抜	二次選抜定員 A-C		151	147
	出願者数		134	143
	受検者数 D (倍率)		130 (0.86)	140 (0.95)
	不合格者数		17	40
	入学許可予定者数 E		113	100
	合格率 E/D (%)		86.9	71.4
入学許可予定者数合計 C+E			7,077	7,146

(3) 入学者選抜の結果

3月16日に発表した県立高等学校全日制および定時制の課程の入学許可予定者数は10,289人であり、その内、推薦選抜による者は2,113人、特色選抜による者は1,212人、一般選抜による入学許可予定者数は6,964人であった。また、3月25日に発表した二次選抜による入学許可予定者数は113人であり、県立高等学校全日制および定時制の入学許可予定者を合わせて10,402人となった。そのうち、全日制では募集定員10,160人に対して入学許可予定者数10,144人となった。

4月8日における県立高等学校全日制および定時制の課程の実入学者数は10,398人で、募集定員の99.6% (昨年度99.5%) となった。

表3 入学許可予定者数等

項目		年度	平成28年度			平成27年度
			全日制	定時制	合計	
※県内中学校卒業予定者数					14,478	14,593
募集定員 A			10,160	280	10,440	10,600
推薦選抜入学許可予定者数			2,107	6	2,113	2,311
特色選抜入学許可予定者数			1,212	-	1,212	1,096
一般選抜入学許可予定者数			6,746	218	6,964	7,046
二次選抜入学許可予定者数			79	34	113	100
総計	入学許可予定者総数		10,144	258	10,402	10,553
	実入学者数 B				10,398	10,550
定員充足率 B/A (%)					99.6	99.5

※県内中学校卒業予定者数は平成28年3月中学校および特別支援学校中学部卒業予定者の第2次進路志望調査による。

2 学科別の受検者数、入学許可予定者数等について

県立高等学校全日制および定時制の課程を合わせて学科別にみると表4のようになり、実入学者数が募集定員を下回ったのは、普通科、工業学科、音楽科、総合学科の4学科（昨年度2学科）であった。

表4 学科別の受検者・入学許可予定者数等

項目		学科	普通	農業	工業	商業	家庭	理数	体育	音楽	美術	総合	
募集定員	A	10,440	7,000	400	840	520	80	80	40	40	40	1,400	
推薦 選 抜	募集枠（人数）	2,283	840	200	380	260	28	---	30	---	30	515	
	受検者数 B	2,477	919	228	347	329	71	---	60	---	37	486	
	入学許可予定者数 C	2,113	797	190	316	247	28	---	30	---	30	475	
	合格率 C/B(%)	85.3	86.7	83.3	91.1	75.1	39.4	---	50.0	---	81.1	97.7	
特色 選 抜	募集枠（人数）	1,212	1,152	---	---	---	---	40	---	20	---	---	
	受検者数 D	4,019	3,910	---	---	---	---	73	---	36	---	---	
	入学許可予定者数 E	1,212	1,152	---	---	---	---	40	---	20	---	---	
	合格率 E/D(%)	30.2	29.5	---	---	---	---	54.8	---	55.6	---	---	
一 般 選 抜	学 力 検 査	学力検査定員 A-(C+E)	7,115	5,051	210	524	273	52	40	10	20	10	925
		確定出願者数	7,907	*4,810	264	536	291	73	**	**	17	**	924
		受検者数 F	7,879	*4,795	263	530	290	73	**	**	17	**	921
		入学許可予定者数 G	6,964	4,968	210	510	273	52	40	10	17	8	876
		合格率 G/F(%)	88.4	***	79.8	96.2	94.1	71.2	***	***	100	***	95.1
	二 次 選 抜	二次選抜定員 A-(C+E)-G	151	83	---	14	---	---	---	---	3	2	49
		出願者数	134	76	---	20	---	---	---	---	2	2	34
		受検者数 H	130	73	---	20	---	---	---	---	2	2	33
		入学許可予定者数 I	113	65	---	13	---	---	---	---	2	2	31
		合格率 I/H(%)	86.9	89.0	---	65.0	---	---	---	---	100	100	93.9
総 計	入学許可予定者	10,402	6,982	400	839	520	80	80	40	39	40	1,382	
	実入学者数 J	10,398	6,980	400	838	520	80	80	40	39	40	1,381	
	過不足 J-A	-42	-20	0	-2	0	0	0	0	-1	0	-19	
	定員充足率(%)	99.6	99.7	100	99.8	100	100	100	100	97.5	100	98.6	
前年度定員充足率(%)		99.5	99.6	100	100	100	100	100	100	100	100	98.1	

* 学校出願の数を除いた数。学校出願の数は、普通科と専門学科を合わせて別表に示す。

** 学校出願のため、普通科と専門学科を合わせて別表に示す。

*** 学校出願のため、学科ごとの合格率は算出できない。

別表 学校出願

項目		学科	普通	理数	普通	体育	普通	美術
一 般 選 抜	学 力 検 査	学力検査定員 A-(C+E)	420	40	224	10	140	10
		確定出願者数	531		306		155	
		受検者数 D	531		305		154	
		入学許可予定者数 E	420	40	224	10	140	8

3 学力検査における出願変更者数について

表5は、学科別の出願者数および出願変更者数等を示したものである。

出願者数7,948人に対し、出願変更者数は536人(昨年度572人)、出願変更率は6.7%(昨年度7.1%)となり、確定出願者数は7,907人であった。

各学科別の出願変更率は、農業学科の13.4%が最も高く(昨年度の最高は商業学科が13.4%)、次に、工業学科の9.6%であった。

表5 学科別の出願変更者数

(昨年度)

項目		学力検査 定員	出願 者数 A	出願変更者数 B (第1志望を 取り下げた数)	出願 変更率 B/A(%)	確定出願 者数 C	出願 変更 者数	出願 変更 率(%)
* 普通		4,267	4,824	300	6.2	4,810	313	6.4
農業		210	292	39	13.4	264	28	11.9
工業		524	521	50	9.6	536	59	10.8
商業		273	280	19	6.8	291	41	13.4
家庭		52	75	6	8.0	73	10	7.9
音楽		20	17	0	0.0	17	0	0.0
総合		925	899	35	3.9	924	45	5.4
学校 出 願	普通・理数	460	567	48	8.5	531	29	4.7
	普通・体育	234	322	26	8.1	306	30	9.7
	普通・美術	150	151	13	8.6	155	17	10.8
合計		7,115	7,948	536	6.7	7,907	572	7.1

*普通科は学校出願を除く

4 学力検査における面接・作文・実技検査について

点数化する面接を実施した学校は全日制の課程では、愛知高等学校、湖南農業高等学校、八日市南高等学校の3校7科であった。定時制の課程では、昨年度と同様で、大津清陵高等学校の昼間、夜間が実施した。

また、受検生の関心・意欲をみるための点数化しない面接を実施した高等学校は、全日制の課程では、昨年度と同様で甲南高等学校のみであった。

実技検査を実施した学校は、石山高等学校(音楽科)、草津東高等学校(体育科)、栗東高等学校(美術科)の3校3科であった。

なお、作文については実施校はなかった。

Ⅱ 単位制 転・編入学、通信制の課程

募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について

単位制の課程の昼間部（滋賀県立大津清陵高等学校に限る。）で実施した転・編入学については、定員40人に対し16人（昨年32人）が入学許可予定者となり、0.40倍（昨年度0.80倍）の倍率となった。二次選抜では、2人が入学許可予定者となり、合計18人（昨年度34人）が入学許可予定者となった。

また、通信制の課程については、定員320人のところ一次選抜では、120人の出願者（昨年度153人）に対して、120人（昨年度153人）が入学許可予定者となった。また、二次選抜では、29人（昨年度46人）が入学許可予定者となり、合計149人（昨年度199人）が入学許可予定者となった。

表6 募集定員，志願者数，入学許可予定者数等

年度	項目	一次選抜				辞退者 D	二次選抜		合計		
		募集定員 A	出願者数 B	入学許可 予定者数 C	率 C/A		出願者数	入学許可 予定者数 E	入学許可 予定者数 F=C+D+E	募集定員 との差 F-A	
平成 28 年度	単位 制	転 編 入	40	17	16	0.40	0	2	2	18	-22
		通 信 制	320	120	120	0.38	0	29	29	149	-171
平成 27 年度	単位 制	転 編 入	40	34	32	0.80	0	2	2	34	-6
		通 信 制	320	153	153	0.48	0	46	46	199	-121

Ⅲ 一般選抜学力検査

1 出題の方針等

問題の作成に当たっては、中学校学習指導要領に示された内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、単なる知識量をみるのではなく、思考力・判断力・表現力を問う設問や記述式の解答を多くするなどの工夫を凝らした。

受検生がじっくり考えることができるように各検査時間を40分から50分に延長するとともに、問題用紙をA3サイズ2枚からA4サイズ8ページ建て（A3二枚重ね・両面刷り・二つ折り）に、解答用紙をA4サイズからA3サイズ・横置き・片面刷り・二つ折り（内刷り）に変更して、今回で2回目となった。

また各教科の学力検査問題は、平成15年度入学者選抜から全日制と定時制の課程が同一日程での実施となっており、本年度も同一問題で実施した。

国語では、様々な種類の文章を素材にして、論理的に思考する力、豊かに想像する力、言語感覚などをみることをねらいとした。

数学では、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解をみるとともに、見通しをもって数学的に表現し処理する力や、事象を数理的に考察し表現する力をみることをねらいとした。

社会では、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して多面的、多角的に考察し、公正に判断する力や適切に表現する力をみることをねらいとした。

理科では、身のまわりの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然のしくみやはたらきについて知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をみることをねらいとした。

英語では、初歩的な英語を聞くことや読むことを通して、話し手や書き手の意向を正確に理解する力、自分の考えや気持ちを適切に表現する力などのコミュニケーション能力をみることをねらいとした。

2 配点等

配点は、各検査教科100点満点を標準とし、5教科で500点満点とした。また、記述式の問題等では、学校の状況に応じて部分点を与えるなど、採点に幅を持たせた。

学力検査実施教科の配点に比重をかける傾斜配点は、膳所高等学校理数科で数学と理科の配点を120点満点（5教科合計で540点満点）で実施した。

3 検査成績

総合得点については、傾斜配点や面接を実施した学校があり、学校ごとに満点値が異なるため、全体としてのまとめは行わなかった。

各検査教科ごとの受検者の平均点は国語54.4点、数学39.2点、社会40.7点、理科34.9点、英語40.5点であった。

平成28年度 国 語

1 出題方針

中学校学習指導要領（国語）に示された内容に基づき、国語を適切に表現し正確に理解する基礎的な力をみるようにした。

また、様々な種類の文章などを素材にして、論理的に思考する力、豊かに想像する力、言語感覚などをみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「総合的な能力を試す問題としては良問である。」「複数の文章や図表を読ませて考えさせたり、多様な形にまとめさせたりと、多角的に問題に取り組みせようと大変良く考えられた良問である。」「表やグラフの読み取りやノートをまとめる際の工夫など、生徒の多様な言語活動を想定した設問で、幅広い言語処理能力が求められる問題であった。」などの意見があった。

設問については、「読み取りに適した文章である。設問も意図が明確で適切である。」「文章の要旨を的確にとらえる力や要約する力、文章を読んで自分の意見として表現する力をみる問題である。」「古典や文法なども出題されており、バランスのよい問題であった。」などの意見があった。

3 解答の分析

全体として、身に付けておくべき基礎的・基本的な知識・技能の定着をみる問題や、二つの文章を読み適切な情報を得る問題は正答率が高かった。

文章の中心的な部分と付加的な部分などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりする問題、文章を読んで自分の意見をもち、根拠を明確にして表現する問題については正答率が低かった。様々な本や文章などを読んで、書き手のものの見方や考え方を自分のものの見方や考え方と対比させて新しい考え方を理解したり、自分の考えを再構築したりする力の育成が望まれる。生徒の思考力・判断力・表現力をはぐくむという観点から、身に付けた基礎的・基本的な知識・技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、自分の考えや意見をまとめ、交流するなどの言語活動の充実が望まれる。

□は、縄文時代の食料や土器について書かれた二つの文章を素材にして、複数の資料を比較しながら読み、適切な情報を得られるかどうかを問う問題であった。二つの文章を比較して読み、目的に応じて必要な情報を読み取る問題は正答率が高かった。文章全体の内容を理解し、適切にまとめる問題については、正答率が低かった。文章から適切な情報を得て、まとめる力の育成が求められる。

□は、論理の展開の仕方をとらえるために、段落相互の関係を考えて要約するという学習の場面において、家庭学習から授業での交流までを想定し、適切に要約する力、自分の意見をもち、根拠を明確にして適切に表現する力を問う問題であった。目的や必要に応じて適切に要約する力を問う問題については正答率が低く、文章の構成を確認し、キーワード同士の関係を整理して文章の内容を読み取ることなどをおして、文章の構成や展開・表現の仕方について自分の考えをまとめる力を育成することが望まれる。

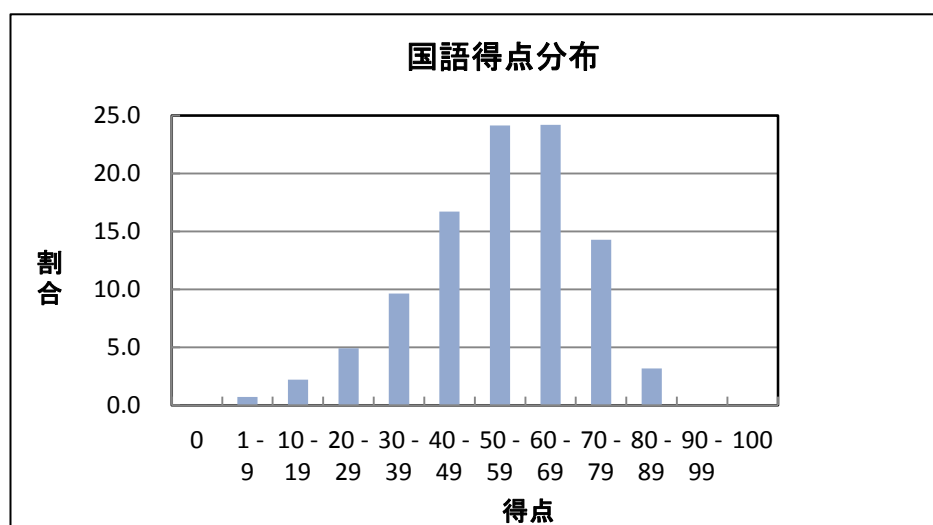
□は、漢字の問題については正答率が高く、基礎的・基本的事項については身に付いている。古典を理解する基本的な力をみる問題についても、正答率は高かった。単語の類別に関する問題については、他の問題よりも正答率が低く、文の中で果たす役割の違いに注目する学習活動が求められる。

国 語

問題区分		正答率 (%)
㊦	1	54.6
	2	79.6
	3	63.0
	4	17.3
	5	65.2
	6	疑問
	答え	15.3
㊦	1	28.5
	2	14.7
	3	9.8
	4	9.6
	5	17.4

問題区分		正答率 (%)	
㊦	1	①	71.1
		②	84.6
		③	62.6
		④	81.5
		⑤	71.1
㊦	2	①	88.2
		②	93.9
		③	91.6
		④	91.7
		⑤	79.3
3	①	75.2	
	②	48.4	
4	①	86.2	
	②	87.6	

年 度	平均点	標準偏差
平 28(100点満点)	54.4	16.2



平成28年度 数 学

1 出題方針

中学校学習指導要領（数学）に定められた内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、数学的な見方や考え方をみるようにした。

また、数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解をみるとともに、見通しをもって数学的に表現し処理する力や、事象を数理的に考察し表現する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「基礎的・基本的な問題から、じっくりと考えさせる問題まで幅広く出題されており、難易度としては適当である。」「ハンドボール投げの記録や送料など、生活の中にある題材をもとにしているため親しみやすい。」「説明せよという問いかけが何題もあり数学的内容の理解とともに数学的表現力を問うところに特徴があり、総合的な学力を問うことのできる出題であった。」などの意見があった。

各設問については、「正負の計算にも、身近な事柄を取り入れており、生活の中での数学の力を問うことができている。」「データ分析に関する基本的計算力とともに、基本的事項についても『説明する力』を問うており、よい出題である。」「関数の問題では、数量を不等号で表現させるなど、関連する数学的知識についても問うておりよかった。」などの意見があった。

3 解答の分析

全体として、数や式の計算、方程式等の基礎的・基本的な事項や概念については、おおむね理解できているといえる。正答率が低い「正六角形や正方形を貼り合わせるとき、図形の周の長さについて説明する問題」や「正三角形であることの証明」については、2つの数量の関係や図形の性質について、見通しをもって説明する力が十分身に付いておらず、今後は、課題を解決する学習において論理的に考察したり、数学的な表現を用いて理由を説明したりする活動を取り入れながら、習得した知識を活用し、思考力・判断力・表現力を育成することが望まれる。

①は、数と式の計算、確率の問題について、正答率が比較的高く、よく理解できていた。相対度数を用いて、どちらの割合が大きいかを説明する問題では、正答率が低かった。資料の傾向を数学的に判断し表現する力の育成が望まれる。

②は、正六角形や正方形を貼り合わせた図形の周の長さや重なる部分の面積について、与えられた条件から、数学的に処理する力や考察し表現する力をみる内容であった。図形の周の長さについて説明する問題については、正答率が低かった。数学的な表現を用いて説明する力や、数理的に考察し表現する力の育成が求められる。

③は、荷物の送料を調べる場面で、荷物の大きさと送料について、関数関係を見いだし、表やグラフを用いて、数学的に処理し考察する力をみる内容であった。与えられた条件から、2社の送料を比較し、送料が安くなる荷物の大きさの範囲を求める問題では、正答率が低かった。問題文から与えられた条件を正確に読み取って考察し、判断、表現する力の育成が望まれる。

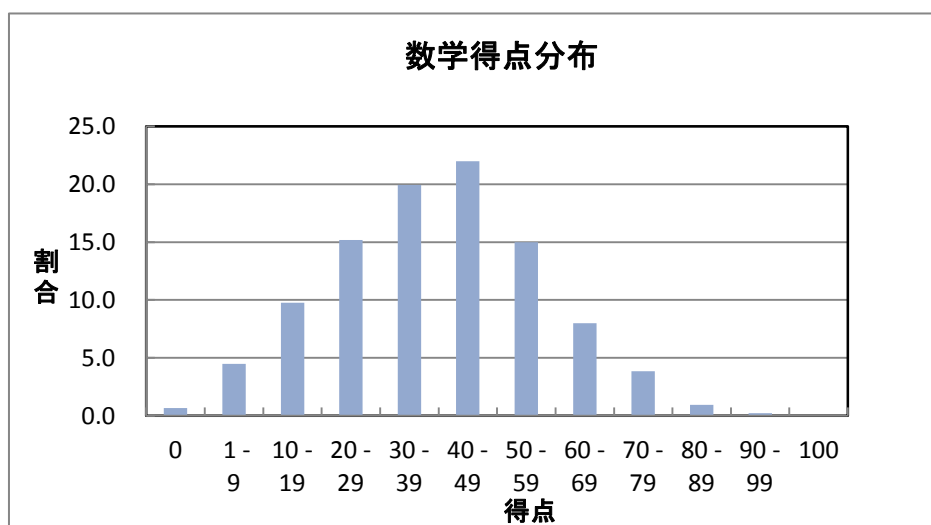
④は、頂点が円周上にある四角形をもとに、回転した図形を作図したり、図形の性質について考えたりする内容であったが、円周角の定理を活用し正三角形になることを証明する問題の正答率が低かった。図形をよく観察して、見通しをもって考察し表現する力の育成が望まれる。

数 学

問題区分		正答率 (%)	
①	(1)	82.8	
	(2)	67.9	
	(3)	57.8	
	(4)	56.4	
	(5)	46.2	
	(6)	太郎	73.1
		花子	71.7
	(7)	①	67.2
		②	30.9
		③	43.2
②	(1)	①	15.9
		②	4.0
	(2)	3.6	

問題区分		正答率 (%)	
③	(1)	ア	40.2
		イ	
	(2)	①	34.7
		②	4.3
④	(1)		13.0
	(2)	①	9.1
		②	2.4

年 度	平均点	標準偏差
平 28 (100 点満点)	39.2	18.0



平成28年度 社 会

1 出題方針

中学校学習指導要領（社会）に示された内容に基づき、地理、歴史、公民の三分野について、基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得をみるようにした。

また、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して、多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、適切に表現する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「地理、歴史、公民の三分野について、複数の資料を活用して多角的に考察し判断する力が求められる設問であった。」「基礎的な知識を問うだけでなく資料を活用し理解したことを表現する能力が問われている。」「資料や絵などを豊富に用いて、諸事象を実証的にとらえさせようとしている。」などの意見があった。

設問については、「事象を覚えるのではなく、理解することが大切であることに気付かせる設問であった。」「知識・理解を問う出題とのバランスが重要である。」「歴史的分野において、もう少し広く時代の流れを踏まえて考えさせてもよかった。」などの意見があった。

3 解答の分析

全体として、地理、歴史、公民の三分野における基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得はおおむねできている。正答率が低い問題に共通するのは、複数の資料を活用して、多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、適切に表現する力をみるものであり、これらの力が十分に身に付いていないと考えられる。今後、資料から分かることを発表したり書いたりする活動や、議論などを通して考えを深めさせる活動をさらに充実させ、社会的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断する力や適切に表現する力を育成する指導が望まれる。

①は、資料やグラフ、地図などをもとに、日本の工業の特色についての理解をみるとともに、八幡製鉄所設立の地理的諸条件、中京工業地帯の特色、日本の企業の海外生産の背景について、考察し判断する力や適切に表現する力をみる問題であった。4つの資料を活用する問題の正答率が低く、複数の資料から適切な情報を取り出して考察し、文章にまとめる力を育成する必要がある。

②は、図表や絵などの資料をもとに、江戸幕府の政治の特色と農村や社会についての理解をみるとともに、問屋制家内工業から工場制手工業への変化、田沼意次の政治について、多面的・多角的に考察し公正に判断する力や適切に表現する力をみる問題であった。中学で学んだ知識と資料から読み取った内容を結び付けて回答する問題で正答率が低く、知識の習得とともに考察力、表現力を総合的に育てていく必要がある。

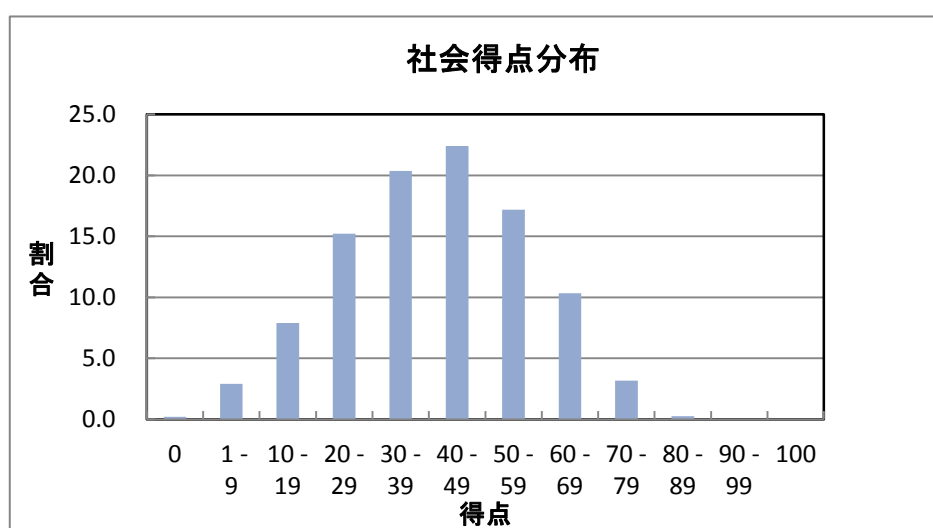
③は、身近な事例を取り上げ、グラフや図をもとに、市場の働きと経済についての理解をみるとともに、市場における価格の決め方や契約の観点から考えられる消費者の自立について、考察し判断する力や適切に表現する力をみる問題であった。グラフを読み取り、価格の決定に至る経過を考察し説明する問題は正答率が低かった。問題文やグラフの用語をつなぎ合わせて文章にするのではなく、資料やグラフから必要な情報を正確に読み取り、蓄積した知識から多角的に判断し、適切に表現する力の育成が必要である。

社 会

問題区分		正 答 率 (%)
①	1	58.1
	2	30.0
	3	9.8
	4	17.7
	5	38.7
	6	アジア
北アメリカ		9.2
②	1	74.3
	2	21.1
	3	42.6
	4	37.1
	5	4.0
	6	5.1

問題区分		正 答 率 (%)	
③	1	92.4	
	2	9.0	
	3	3.3	
	4	51.6	
	5	A	12.0
		B	18.4
6	16.9		

年 度	平均点	標準偏差
平 28 (100点満点)	40.7	16.7



平成28年度 理 科

1 出題方針

中学校学習指導要領（理科）により定められた内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な知識と技能をみるようにした。

また、身のまわりの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然のしくみやはたらきについて、知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「いろいろな観点から現象を深く考察させる良い問題であった。」「実験や観察、資料を組み合わせる工夫があった。」「実験の題材はよかった。」などの意見があった。

設問については、「思考力や表現力を問う問題が多かった。もう少し知識・理解を問う問題があってもよかった。」「記述に重点が置かれた設問においては、記述力のない生徒について、理科の学力を測る段階にいたらない傾向があった。」などの意見があった。

3 解答の分析

全体として、現象を科学的に説明したり、実験結果や資料を組み合わせる考察し、それを適切に表現するような問題では正答率が低かった。また、各分野の基本的な事項についても十分には身につけていない点が見られた。今後は、基本的な事項や概念の定着を図るとともに、実験等をおおして、その現象がなぜ起こるのかを科学的に探究する態度を育成する必要がある。また、現象の要点や自分の考察を簡潔に表現できるよう言語活動の充実をより一層図る必要がある。

①では、イオンについての知識・理解を問う問題において、正答率が低かった。また、水に溶けない塩が生じる中和反応において、イオンがどのように反応するのかを考察し、その内容を記述する問題において、正答率が低かった。

現象について「なぜそのようなことが起こるのか」を科学的に考察する力や、その現象や考察を適切に表現する力の育成が望まれる。

②では、仕事の大きさを求める問題や、磁界の変化により生じる電流の名称を答えるような基礎的な事項を問う問題については、比較的正答率が高かった。しかし、実験の結果に基づいて、実験装置によって豆電球の明るさが異なる理由を記述する問題や、位置エネルギーが電気エネルギーや熱エネルギーに移り変わることを説明する問題については正答率が低かった。

今後は、実験の結果を分析して解釈する能力や、現象の本質を理解して様々な現象を統一的に理解する力の育成が求められる。

③では、観察の方法や細胞分裂の順序を問う問題については、正答率が高かった。しかし、観察の結果から、細胞の大きさと核の直径の関係を問う問題や、仮説が正しいと考えられる理由を記述する問題、生物の成長と細胞の変化を関連づけて考察し記述する問題では正答率が低かった。

今後は、観察の結果を仮説と比較しながら考察し、自分の考えを科学的に表現することができる力の育成が望まれる。

④では、鉱物の名称を答えるような基礎的な事項を問う問題については、比較的正答率が高かった。一方、他者の考えについて、そのように考えた理由を記述する問題や、流域の地質と流水のはたらきを関連付けて考察し、川によって砂とれきの特徴に違いがある理由を記述する問題では正答率が低かった。

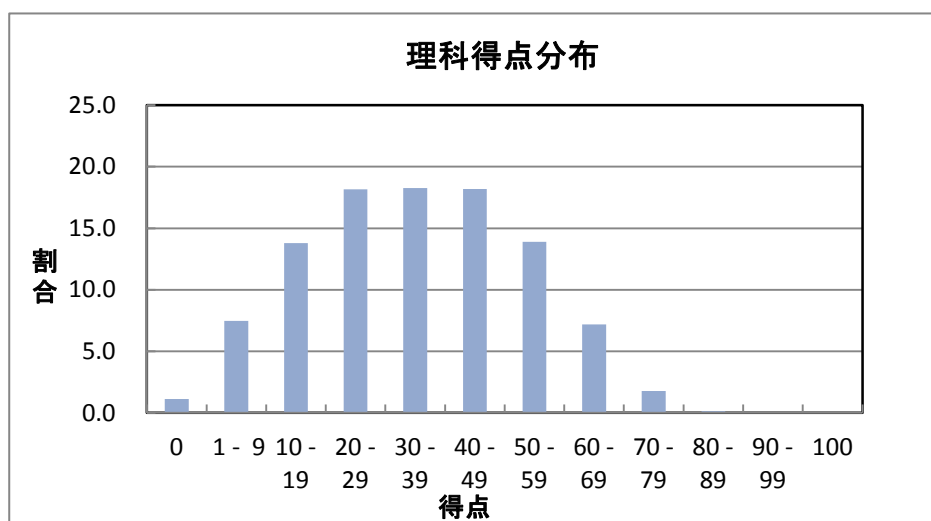
今後は、観察の結果や資料などを活用して考察し、正しい結論を導き出す力の育成が望まれる。

理 科

問題区分		正答率 (%)	
①	1	39.9	
	2	文章	35.5
		法則	77.2
	3	硫酸	16.7
		バリウム	23.3
	4	文章	15.8
		グラフ	44.0
	5	18.5	
	6	1.9	
	②	1	63.1
2		40.4	
3		58.5	
4		記号	47.8
		理由	15.0
5		36.1	
6		0.5	
7		1.7	

問題区分		正答率 (%)	
③	1	65.8	
	2	18.0	
	3	12.6	
	4	答え	76.6
		順番	81.4
5	7.3		
④	1	28.9	
	2	48.5	
	3	5.7	
	4	24.9	
	5	5.3	

年 度	平均点	標準偏差
平28 (100点満点)	34.9	17.9



平成28年度 英語

1 出題方針

中学校学習指導要領（外国語）に示された内容に基づき、英語を理解し、英語で表現する基礎的な力をみるようにした。

また、初歩的な英語を聞くことや読むことを通して、話し手や書き手の意向を正確に理解する力、自分の考えや気持ちを適切に表現する力などのコミュニケーション能力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「中学校における基礎的な知識を問う問題と、その知識を活用する力を問うバランスの良い問題であった。」「中学生に身近な場面の会話をもとに、自分はどう考えるかを適切に表現する力をみる良問であった。」「スピーキングテストやスピーチを聞いての出題、ペアワークや先生からの問いかけというように、中学校の日ごろの学習活動を踏まえた問題であった。」などの意見があった。

設問については、「基本的な語彙、語法、文法の力が定着していないと書けない出題も多くみられ、中学校における基礎・基本の定着の重要性を示している。」「自分の国の文化、習慣に目を向け、日本文化を発信する意図がみられたことは歓迎すべきである。」などの意見があった。

リスニングについては、「聞き取りやすい音声であった。」「問題形式、レベルともにバラエティに富んでおり、難易度の高い問題もあり妥当であった。」などの意見があった。

3 解答の分析

全体として、実際の言語の使用場面を想定した会話を聞いて、話し手の意向を理解する力や、身近な話題についての英文を読んで大まかな流れをつかむ力、基本的な語彙を用いて簡単な内容を表現する力はある程度身に付いている。正答率が低いのは、相手の意向を正確に理解する問題や、場面や状況に応じて考えや気持ちを適切に表現する問題であった。実際のコミュニケーションを目的とした英語の運用能力が十分に身に付いていないと考えられる。より豊かな表現を可能にし、コミュニケーションをより充実できるようにするため、語彙や文構造の理解についてより一層の定着を図るとともに、それらを言語活動と効果的に関連付け、実際に活用できるように指導することが重要である。日ごろから、読んだり聞いたりした英文の内容を理解するだけでなく、自分なりの感想や意見などを表現するコミュニケーション活動をより一層充実させることが望まれる。

①の聞き取り問題では、絵を見て答えを選ぶ問題や、初歩的な短い会話の内容を聞き取る問題、身近な話題の会話を聞いて情報や話し手の意向を聞き取る問題の正答率が高く、中学校の授業で英語を「聞く・話す」活動に積極的に取り組ませている成果が表れている。しかし、まとまりのある英文を聞いて、状況や場면을想像しながら、聞き取った内容を英語で適切に表現する問題では正答率が低かった。日ごろから、まとまりのある英語を聞き、その内容についてペアで話し合ったりするような活動を一層充実させることが望まれる。

②は、自分の夢についての生徒の発表を素材にして、発表者の伝えたいことなどを正確に読み取る力や、発表の内容に対して自分の考えや気持ちを適切に表現する力などをみる問題であった。話し手の大まかな意向を理解する問題や、会話の流れに即して基本的な語彙を用いて適切に表現する力をみる問題は、比較的高い正答率であったが、自分の考えや気持ちを適切に表現する問題では正答率は低かった。日ごろから、読んだり聞いたりした内容に対して、自分の感想や意見などを適切に表現して述べ合う活動をより計画的、系統的に行うことが望まれる。

③は、海外に留学中の生徒の、外国や日本の文化についての会話を素材にして、会話の大まかな流れや大切な部分を読み取る力、自分の考えや気持ちを理由を添えて表現する力などをみる問題であった。会話の流れに即して適切な語彙を選択する問題では正答率が高かったが、まとまりのある英文から中心となる事柄や大切な部分をとらえて的確に読み取る問題や、英語で状況を説明したり、自分の考えを表現したりする問題では正答率が低かった。まとまりのある英文を読んだり聞いたりして、内容について問答したり意見を述べ合ったり、感想、賛否やその理由を示したりする活動を一層充実させることが望まれる。

英 語

問題区分			正答率 (%)	
①	その 1	1	71.5	
		2	26.7	
	その 2	1	61.5	
		2	38.7	
	その 3	1	74.6	
		2	54.0	
		3	76.9	
	その 4	1	25.5	
		2	4.2	
	②	1		69.9
2		47.2		
3		53.9		
4		54.0		
5		⑤	71.2	
		⑥	43.2	
6		(1)	⑦	23.6
			⑧	11.1
(2)		11.4		

問題区分			正答率 (%)
③	1		20.6
	2	(1)	18.1
		(2)	17.8
	3		72.7
	4		7.7
	5		16.8
	6		25.4
	7		35.2
8		13.7	

年 度	平均点	標準偏差
平 28 (100 点満点)	40.5	22.9

